第８節　　技術・家庭

第１　技術・家庭科改訂の趣旨と要点

１　改訂の趣旨

中学校学習指導要領技術・家庭科の改訂に基づき、本編成要領「技術・家庭」を次のとおり改訂した。

⑴　改訂の基本方針

技術・家庭科の課題を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から、その内容の改善を図る。

その際、他教科等との連携を図り、社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。

ア　家庭分野については、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。

イ　技術分野については、ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視し、目標や内容の改善を図る。

ウ　少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった社会の状況に対応し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。

心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図るため、食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。

エ　持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し、技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実を図る。また、情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し、安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を目指す指導を充実する。

オ　体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、自ら課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する。

カ　家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

⑵　改訂の具体的事項

これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する観点から、次のような改善を図る。

ア　技術分野については、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料、加工、エネルギー、生物、情報に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、技術と社会・環境とのかかわりについて理解を深め、よりよい社会を築くために技術を適切に評価・活用する能力と態度の育成を重視する。

イ　家庭分野については、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習を通して、中学生としての自己の生活の自立を図り、子育てや心の安らぎなどの家庭の機能を理解するとともに、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を重視する。

２　改訂の要点

⑴　目標の改善

ア　技術分野においては、ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視する。

イ　家庭分野においては、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、これからの生活を展望して、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度の育成を重視する。

⑵　内容構成の改善

技術分野の内容は「Ａ材料と加工に関する技術」「Ｂエネルギー変換に関する技術」「Ｃ生物育成に関する技術」「Ｄ情報に関する技術」、家庭分野の内容は「Ａ家族・家庭と子どもの成長」「Ｂ食生活と自立」「Ｃ衣生活・住生活と自立」「Ｄ身近な消費生活と環境」のそれぞれ４つの内容で構成する。

⑶　履修方法の改善

ア　各分野のＡからＤの４つの内容を、すべての生徒に履修させる。

イ　家庭分野の内容Ａの⑶のエ、Ｂの⑶のウ及びＣの⑶のイについては、これら３事項のうち１又は２事項を選択して履修させる。

ウ　技術分野の内容の「Ａ材料と加工に関する技術」の⑴及び家庭分野の内容の「Ａ家族・家庭と子どもの成長」の⑴については、小学校での図画工作科や家庭科などの学習を踏まえ、３学年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容を設定し、第１学年の各分野の最初に履修させる。

第２　指導計画の作成

１　基本的な考え方

指導計画の作成に当たっては、法令及び学習指導要領「総則」のほか技術・家庭科の目標を正しくとらえ、分野間での連携を図り、次のような点に配慮する。

⑴　改訂の趣旨を踏まえ、これまで以上に地域や学校及び生徒の実態等を考慮し、創意工夫を生かしつつ、全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成すること。

⑵　技術分野及び家庭分野の授業時数については、３学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させること。

⑶　技術分野の内容ＡからＤ並びに家庭分野の内容ＡからＤの各項目に配当する授業時数及び履修学年については、地域、学校及び生徒の実態等に応じて、各学校において適切に定めること。

⑷　各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材を設定して計画を作成すること。その際、小学校における学習を踏まえ、他教科等との関連を明確にして、系統的・発展的に指導ができるよう配慮すること。

⑸　道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、道徳の内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。

２　指導計画作成の手順・留意事項

⑴　指導計画作成の手順

３学年間を見通した全体的な指導計画の作成に当たっては、次のような手順が考えられる。

ア　中学校学習指導要領の「総則」及び技術・家庭科の目標や内容、小学校や高等学校並びに他教科等の関係教科・科目との関連を研究する。

イ　各学校の教育目標を踏まえる。

ウ　生徒の発達の段階や興味・関心、生活経験や学習経験、各学校の指導体制や施設・設備等の実態、地域や保護者の願い、地域の学習環境などの実態を把握する。

エ　３学年間の技術・家庭科の指導を通して育てたい具体的な生徒像を明確にする。

オ　各項目及び各項目に示す事項との関連を見極め、育てたい能力や指導方法、指導時期などについて重点化を図り、題材相互の関連に配慮して、指導方針を明らかにする。

カ　技術分野及び家庭分野の各項目に配当する授業時数及び履修学年を決める。その際、以下の手順を参考にする。

㋐　各分野の内容ＡからＤの３学年間で履修するすべての項目に配当する授業時数を決める。

㋑　各分野の内容ＡからＤの各項目の指導順序と履修学年及び履修時期を決める。

キ　題材を選定する。

㋐　各項目に示されている指導内容を、生徒の身近な生活と関連させるなどして、指導単位にまとめて組織する。

㋑　地域、学校及び生徒の実態等を十分考慮する。

㋒　実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、思考力、判断力、表現力等の育成が図れるようにする。

ク　各題材の指導計画及び評価計画を作成する。その際、以下の手順を参考にする。

㋐　各題材ごとに指導項目のチェック表などを活用して指導項目を確認する。

㋑　各指導項目に配当した授業時数を確認する。

㋒　指導内容と指導上の留意事項を検討する。

㋓　指導方法や学習形態を工夫する。

㋔　教材・教具を検討する。

㋕　指導計画立案の段階から、評価の観点や評価規準を作成し、評価の方法や時期などを具体的に定め、指導と評価の一体化が図れるよう工夫する。

⑵　指導計画作成上の留意事項

指導計画作成に当たっては、中学校学習指導要領解説「技術・家庭編」第３章「指導計画の作成と内容の取扱い」を踏まえ、次の事項に留意する。

ア　３学年間を見通した全体的な指導計画を作成する。

(ｱ) 各分野の授業時数については、教科の目標の実現を図るため、３学年間を通して、いずれかの分野に偏ることなく配当する。

(ｲ) 各分野の内容ＡからＤは、すべての生徒に履修させる。その際、家庭分野の内容Ａ、Ｂ、Ｃの「生活の課題と実践」の事項については、これら３事項のうち１又は２事項を選択して履修させる。なお、選択して履修する事項については、生徒が学習する事項を選択できるようにすることが望ましい。

イ　各分野の各項目に配当する授業時数及び履修学年については、各分野の内容ＡからＤの各項目に適切な授業時数を配当するとともに、３学年間を見通して履修学年や指導内容を適切に配列する。

(ｱ) 各分野の内容ＡからＤの各項目に配当する授業時数については、それぞれの学習の目的が達成されるように配当する。

(ｲ) 履修学年については、各項目や各項目に示す事項の関連性や系統性に留意し、適切な時期に分散して履修させる場合や特定の時期に集中して履修させる場合、３学年間を通して履修させる場合などを考えて、計画的な履修ができるよう配慮する。

(ｳ) 家庭分野の「生活の課題と実践」の履修の時期については、すべての生徒が履修する内容との組合せ方により、学期中のある時期に集中させて実施したり、特定の期間を設けて継続的に実施したり、長期休業を活用して実施したりするなどの方法が考えられる。いずれの場合も生徒が生活の課題を具体的に解決できる取組となるように学習の時期を考慮し効果的に実施できるよう配慮する。

ウ　題材の設定に当たっては、各項目及び各項目に示す事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮する。その際、実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を設定する。

(ｱ) 教科のねらいを十分達成できるよう基礎的・基本的な内容を押さえたもの。

(ｲ) 生徒の主体的な学習活動や個性を生かすことができるもの。

(ｳ) 自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けることができるもの。

エ　道徳の時間などとの関連については、中学校学習指導要領第１章総則の第１の２及び第３章道徳の第１に示す道徳教育の目標に基づき、第３章道徳の第２に示す内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をする。そのため、指導計画作成においては、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

オ　各分野の内容の取扱いについては、次の事項に配慮する。

(ｱ) 実践的・体験的な学習活動を充実させる。

(ｲ) 問題解決的な学習を充実させる。

(ｳ) 家庭や地域社会との連携が効果的に図れるようにする。

(ｴ) 学習指導と評価の一体化を図り、評価を学習指導に生かせるようにする。

カ　実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。

(ｱ) 実習室等の環境の整備と管理については、学習環境の整った実習室そのものが、生徒の内発的な学習意欲を高める効果があることに留意する。

(ｲ) 実習室等の施設・設備の管理では、事故防止に努め、定期的な点検及び学習前の点検を行い、常に最良の状況を保持できるように留意する。

(ｳ) 実習等で使用する材料の保管、用具の手入れなどを適切に行うとともに、生徒にも指導を行い、実生活でも役立つことに気付くよう配慮する。

(ｴ) 各学校の実態に即して実習室の使用規定や機器類の使用などに関する安全規則を定め、これらを指導計画の中に位置付けて指導の徹底を図る。

(ｵ) 服装については、活動しやすいものを身に着けさせ、安全と衛生に配慮するようにする。

(ｶ) 見学、調査、実習等を校外で実施する場合には、交通手段などの安全の確認や生徒自身の安全の確保に留意する。また、学習の対象となる相手に対する配慮や安全の確保などに十分気を配るよう指導する。

キ　言語活動の充実については、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮する。そのため、年間指導計画作成においては、各項目の指導内容とのかかわり及び国語科をはじめとする他教科等との関連も踏まえ、言語の能力を高める学習活動を指導計画に位置付けておくことが大切である。

第３　指導計画作成のための資料

１　技術分野の内容の構成について

⑴　各内容の構成

今回の改訂では、技術分野の内容Ａから内容Ｄを必修で全生徒に履修させ、すべての内容に、技術の評価・活用という学習のプロセスが取り入れられた。各内容では、広く現代社会で活用されている技術について学習し、それらの技術を使用した製作・制作・育成などのものづくりを行う。さらに、ものづくりの経験を生かして深めた技術と社会・環境とのかかわりについての理解を踏まえ、現代及び将来において利用される様々な技術を評価し、活用する能力と態度を育てるという３段階の構成になっている。特に、評価・活用については、製作品や取組の評価・活用だけでなく、周囲や社会に目を向けて、現代及び将来において利用される様々な技術を評価し活用する取組が入るということである。

技術分野の内容の構成

分類＼内容	Ａ　材料と加工	Ｂ　エネルギー変換	Ｃ　生物育成	Ｄ　情　　報
３学年間の学習の見通しを立てるガイダンス的な内容	⑴ア　技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割 イ　技術の進展と環境との関係			
広く現代社会で活用されている技術	⑵ア　材料の特徴と利用方法 イ　材料に適した加工法と、工具や機器の安全な使用	⑴ア　エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み イ　機器の基本的な仕組み、保守点検と事故防止	⑴ア　生物の育成に適する条件と、育成環境を管理する方法	⑴ア　コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組み イ　情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組み ウ　著作権や発信した情報に対する責任と、情報モラル
技術を評価し活用する能力と態度	ウ　材料と加工に関する技術の適切な評価・活用	ウ　エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用	イ　生物育成に関する技術の適切な評価・活用	エ　情報に関する技術の適切な評価・活用
技術を活用したものづくり（製作・制作・育成）	⑶ア　使用目的や使用条件に即した機能と構造 イ　構想の表示方法と、製作図 ウ　部品加工、組立て及び仕上げ	⑵ア　製作品に必要な機能と構造の選択と、設計 イ　製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検	⑵ア　目的とする生物の育成計画と、栽培又は飼育	⑵ア　メディアの特徴と利用方法、制作品の設計 イ　多様なメディアの複合による表現や発信 ⑶ア　コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組み イ　情報処理の手順と、簡単なプログラムの作成

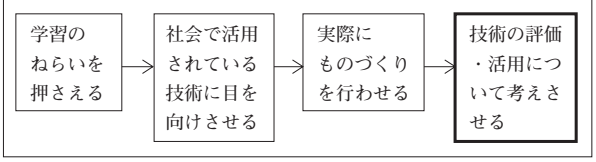
指導計画の作成に当たっては、社会の変化への対応の観点から、従前の実践的・体験的な活動や主体的な活動の重視に加えて、以下の点について特に留意する必要がある。

・環境教育、情報教育、勤労観・職業観の育成などの視点、知的財産権にかかわる指導等との関連に配慮した計画・実践について扱うこと。
・道徳教育の充実、言語活動の充実が図れるようにすること。
・製作（制作）にとどまることなく、学習したことを生活に活用できるようにするとともに、技術のメリットやリスクを踏まえて、現状の条件や環境の中で適切と思われるものを選択できる力を育成すること。

⑵　学習指導の流れ

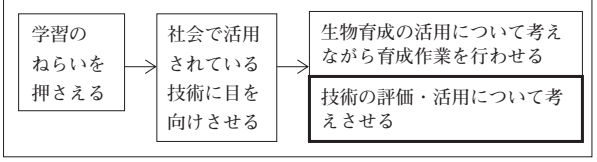
技術を評価し活用する能力と態度を育てる項目については、「技術を活用したものづくり」の後に学習するのが一般的な流れ［例１］であるが、生徒の発達段階や他の内容の学習状況を踏まえ、製作（制作）や育成の学習と並行して扱う場合［例２］や、何回かに分けて扱う場合［例３］も考えられる。

［例１］ものづくりや生物育成を行った経験をもとに技術の評価・活用について扱う



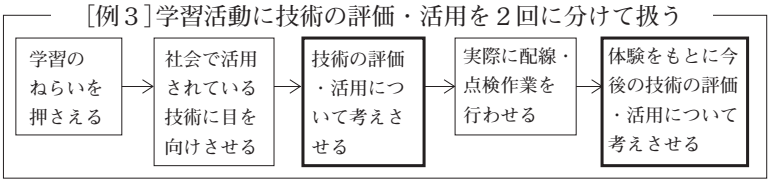
例えば、切削の仕組みや工具の種類等について知らせ、実際に両刃のこぎりやのみ、かんな等を使用させてものづくりを行った後、同様の技術が他の切断工具や切削機械の刃先等、一般的に広く使われていることを学習させるなど。

［例２］ものづくりや生物育成の学習と並行して技術の評価・活用を扱う



例えば、作物の栽培において農薬について考え、そのメリットやリスクを検討させた上で、実際の栽培に当たって、適切な殺虫剤・殺菌剤等を選択し、散布の時期や量を考えた栽培計画が立てられるようにするなど。

［例３］学習活動に技術の評価・活用を２回に分けて扱う



例えば、エネルギー変換に関する学習において、一般的に活用されている技術の評価・活用について考えさせた後、実際に作業を行って経験したことをもとに、再度自分の学習を振り返りながら今後の技術の評価・活用について考えさせ、展望を持たせられるようにするなど。

⑶　内容構成の留意点

	□特に配慮すべきこと　☆分野内で他の内容に関わること　★小学校や他教科に関わること
A　材料と加工に関する技術	□⑴については、技術・家庭科の意義を明確にするとともに、小学校での学習を踏まえ、材料と加工に関する技術、エネルギー変換に関する技術、生物育成に関する技術及び情報に関する技術について、３学年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容として、第１学年の最初に履修させる。 □材料と加工に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させてきた状況とともに、材料の　再資源化や廃棄物の発生抑制など、材料と加工に関する技術が自然環境の保全等に大きく貢献していることについて理解させるよう配慮する。 □実践的・体験的な学習活動を通して、工夫して製作することの喜びや緻密さへのこだわりを体験させるとともに、これらに関連した職業についての理解を深めることに配慮する。 □リサイクルを前提として材料及び加工法を選択させたり、使用者の安全に配慮して設計・製作させたりするなど、材料と加工に関する技術にかかわる倫理観が育成されるよう配慮する。 □より効果的な材料の利用方法や加工法を考えたり、使用目的や使用条件に即した機能と構造を工夫したりする中で新しい発想を生み出し活用することの価値に気付かせるなど、知的財産を創造・活用しようとする態度の育成に配慮する。 ☆他の内容Ｂ～Ｄでも扱う資源・エネルギー・環境などに関わる視点も意識して取り入れられるよう配慮する。 ★小学校の図画工作科で習得した知識・技能を踏まえ、算数・数学科、美術科等の教科における様々な立体の表示・表現方法との関連に配慮する。
B　エネルギー変換に関する技術	□エネルギー変換に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させてきた状況とともに、新エネルギー技術や省エネルギー技術など、エネルギー変換に関する技術が自然環境の保全等に大きく貢献していることについて理解させるよう配慮する。 □実践的・体験的な学習活動を通して、工夫して製作することの喜びや緻密さへのこだわりを体験させるとともに、これらに関した職業についての理解を深めることに配慮する。 □省エネルギーや使用者の安全に配慮した製作品を設計・製作させるなど、エネルギー変換に関する技術にかかわる倫理観が育成されるよう配慮する。 □より効果的なエネルギーの利用方法を考えたり、使用目的や使用条件に即して製作品の仕組みや構造を工夫したりする中で新しい発想を生み出し活用することの価値に気付かせるなど、知的財産を創造・活用しようとする態度の育成に配慮する。 ☆構想図や回路図などを用いて自分の考えを整理したり、部品の加工をしたりする際には、内容の「Ａ材料と加工に関する技術」との関連に配慮する。 ★小学校及び中学校の理科等におけるエネルギーに関する学習を踏まえ、関連する原理や法則が具体的にどのような機器やシステムに生かされているかを取り上げ、科学的な根拠に基づいた指導となるよう配慮する。
C　生物育成に関する技術	□生物育成に関する技術が、食糧、バイオエタノールなどの燃料、木材の生産、花壇や緑地等の生活環境の整備など、多くの役割をもつことについて理解させるよう配慮する。 □実践的・体験的な学習活動を通して、生物の育成や成長・収穫の喜びを体験させるとともに、これらに関連した職業についての理解を深めることに配慮する。 □環境に対する負荷の軽減や安全に配慮した栽培又は飼育方法を検討させるなど、生物育成に関する技術にかかわる倫理観が育成されるよう配慮する。 □より効果的な栽培・飼育方法を考えたり、工夫したりする中で、新しい発想を生み出し活用することの価値に気付かせるなど、知的財産を創造・活用しようとする態度の育成にも配慮する。 ☆ある時期にまとめて履修するよりも、育成する対象に応じて適切に作業時期や時間を割り振ることが大切である。他の題材との配列や組合わせ等、効率よく育成計画が立てられるように配慮する。 ★小学校での栽培・飼育の体験や中学校理科での生物に関する学習を踏まえた上で、生物育成の目的をしっかりと捉えた育成計画を立てられるよう配慮する。
D　情報に関する技術	□情報に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させてきた状況とともに、情報に関する技術が多くの産業を支えていることについて理解させるよう配慮する。 □実践的・体験的な学習活動を通して、情報を収集、判断、処理し、発信したり、プログラムにより機器等を制御したりする喜びを体験させるとともに、これらに関連した職業についての理解を深めることに配慮する。 □ディジタル作品を利用する際の約束や個人情報の取扱い方針を明記させるなど利用者が安心して利用できる作品を設計・制作させたり、身の回りの機器を制御しているプログラムが動作しなかった場合の影響を検討させたりすることなどを通して、情報に関する技術にかかわる倫理観が育成されるよう配慮する。 □より効果的な情報の表現・発信方法や情報処理の手順を考えたり、工夫したりする中で、新しい発想を生み出し活用することの価値に気付かせるなど、知的財産を創造・活用しようとする態度の育成にも配慮する。 ☆内容ＡからＣと同様に、ディジタル作品制作に関しては、設計の段階からしっかりと見通しをもたせ、試行錯誤だけで制作作業が進むことのないように配慮する。フローチャートや絵コンテ等を用い、手順や作品構成を整理するとともに、アイディアや取組を様々な方法で記録して、各生徒が自分の考えを表現したり後で参考にできるよう配慮する。 ★情報活用能力を育成する観点から、小学校におけるコンピュータの基本的な操作や発達の段階に応じた情報モラルの学習状況を踏まえるとともに、他教科等における情報教育及び高等学校における情報関係の科目との連携・接続に配慮する。

2　家庭分野の内容、項目、事項について

家庭分野の内容の指導に当たっては、小学校家庭科の学習を踏まえ、他教科との関連を明確にして、系統的・発展的に指導ができるよう配慮する。また、各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、適切な題材を設定して総合的に展開されるようにする。

⑴　各項目に示す事項のねらい、配慮事項、活動例及び小学校家庭科との関連

<table>
<tr><th></th><th>内容、項目、事項のねらい、配慮事項と活動例</th><th>小学校家庭科との関連</th></tr>
<tr><td rowspan="4">A　家族・家庭と子どもの成長</td><td>⑴　自分の成長と家族
ア・ガイダンスとして、第１学年の最初に家庭分野の学習の導入として扱う。
・A⑵や⑶との関連を図り学習を進める扱いにおいては、A⑵又は⑶の学習時に導入としてもう一度扱う。</td><td rowspan="3">A家庭生活と家族

⑴　自分の成長と家族
ア　成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ
⑵　家庭生活と仕事
ア　家庭の仕事と分担
イ　生活時間の工夫
⑶　家族や近隣の人々とのかかわり
ア　家族との触れ合いや団らん
イ　近隣の人々とのかかわり</td></tr>
<tr><td>⑵　家庭と家族関係
ア・家庭や家族の基本的な機能を取り上げ、その重要性や、家庭生活が地域と相互に関連して成り立っていることを理解できるようにする。
・高齢者などの地域の人々とのかかわりについても触れるよう留意する。
イ・家族とのかかわりや、これからの自分の生活に関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考えることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>⑶　幼児の生活と家族
ア・幼児の心身の発達の特徴とそれを支える生活について知る。
・幼児期における周囲の人との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性について考え、幼児にふさわしい生活を整える家族の役割を理解できるようにする。
イ・遊びを観察したり、一緒に遊んだり、遊び道具を製作したりするなどの活動により、幼児の遊びについて考え、遊びのもつ意義について理解できるようにする。
ウ・幼児と触れ合う活動などの直接的な体験を通して、幼児への関心を深めるとともに、幼児とのかかわり方を工夫できるようにする。
・幼稚園や保育所等の幼児との触れ合いができるよう留意する。
エ・これからの生活を展望して、課題をもって家族又は幼児の生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てるようにする。(□は、生徒の興味・関心等に応じて１又は２事項を選択して履修)</td></tr>
<tr><td>活動例</td><td colspan="2">○物語の活用や自分の成長とそれにかかわってきた人々を図に表し、成長過程を振り返る。○自分や家族の生活を支えている家庭の役割を資料や新聞等を利用して見つめ直す。○子どもの成長と地域とのかかわりについて調べる。○地域の活動や行事等を取り上げ、高齢者など地域の様々な人々とのかかわりについて話し合う。○家族とのコミュニケーションを取り上げ、改善していくための工夫を話し合う。○身近な幼児と周囲の人々の観察や視聴覚教材を活用する。○生徒の幼児期の遊び体験を振り返る。○子育て支援センターや育児サークルの親子、教室に幼児を招いて触れ合う。○地域活動に参加して高齢者と触れ合ったり、家族のコミュニケーションを深めたりするための方法を工夫し、計画、実践する。○幼児の遊び道具の製作、間食の調理、簡単な衣服の製作など、計画を立て作成し、それを用いて幼児との触れ合いやかかわり方を工夫する。</td></tr>
<tr><td>B　食生活と自立</td><td>⑴　中学生の食生活と栄養
ア・日常の食生活を振り返ることを通して、自分の食生活に関心をもち食事が果たす役割を理解し、心身の健康によい食習慣について考えることができるようにする。
イ・小学校における五大栄養素に関する基礎的な事項の学習を踏まえ、いろいろな栄養素が相互に関連をもちながら健康の保持増進や成長のために役立っていることを理解し、中学生に必要な栄養の特徴について考えることができるようにする。
・水の働きや食物繊維についても触れる。
⑵　日常食の献立と食品の選び方
ア・食品の栄養的特質に関心をもち、食品を食品群に分類し、中学生の１日に必要な食品の種類と概量を把握することができるようにする。
イ・小学校で学習した１食分の献立を踏まえ、中学生に必要な栄養量を満たす１日分の献立を考えることができるようにする。
ウ・日常多く用いられている食品の品質を外観や表示などから見分けることができるようにするとともに、日常生活と関連付け用途に応じた選択ができるようにする。
・主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の良否や表示を扱う。
⑶　日常食の調理と地域の食文化
ア・中学生の１日分の献立を踏まえ、生徒の実態に合わせた題材を設定し、魚、肉、野菜を中心に日常よく用いられる食品を取り上げ、基礎的な日常食の調理ができるようにする。
イ・地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心をもち、その意義について理解できるようにする。
・調理実習を中心とし、主として地域又は季節の食材を利用することの意義について扱う。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできる。
ウ・課題をもって日常食の調理や地域の食材を生かした調理の計画を立て実習などを行い、食生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てるようにする。
食に関する指導については、技術・家庭科における食に関する指導を中核として、学校の教育活動全体で一貫した取組を推進する。</td><td>B日常の食事と調理の基礎

⑴　食事の役割
ア　食事の役割と日常の食事の大切さ
イ　楽しく食事をするための工夫
⑵　栄養を考えた食事
ア　体に必要な栄養素の種類と働き
イ　食品の栄養的な特徴と組合せ
ウ　１食分の献立
⑶　調理の基礎
ア　調理への関心と調理計画
イ　材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け
ウ　ゆでたり、いためたりする調理
エ　米飯及びみそ汁の調理
オ　用具や食器の安全で衛生的な取扱い、こんろの安全な取扱い</td></tr>
</table>

	活動例	○普段の食生活を振り返り、自分の食習慣の問題点を把握する。○１日の食事場面がイメージできる視聴覚教材などを活用し、健康によい食習慣について話し合う。○１日に必要な食品の概量を実感させるよう実際の食品を食品群に分類、計量する。○１日３食のうちいくつかを指定して残りの献立を立案する。○給食の献立を活用する。○調理実習で使用する生鮮食品や加工食品の表示を調べる。○手づくりのものと市販の加工食品などを比較して用途に応じた選択について話し合う。○魚・肉については、煮る、焼く、炒めるなどの加熱調理を扱う。○野菜の調理上の性質を理解させる。○その他の食品として卵やいも類などを取り上げる。○地域又は季節の食材について調べ、調理をする。○自分の食生活の課題を解決するための日常食の調理を計画し実践する。○地域の食材を生かした献立を工夫し、調理を計画し実践する。○郷土料理や行事食を計画し実践する。
C 衣生活・住生活と自立	⑴ **衣服の選択と手入れ** ア・小学校で学習した保健衛生上の着方と生活活動上の着方を踏まえて、衣服の社会生活上の機能を中心に理解し、時・場所・場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用の工夫ができるようにする。和服の基本的な着装を扱うこともできる。 イ・衣服を計画的に活用することの必要性を理解し、手持ちの衣服の活用を工夫したり、新たな衣服の入手について考えたりすることを通して、目的に応じて衣服を選択できるようにする。既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱う。 ウ・衣服を快適に着用するために、洗濯や補修などの手入れが必要であることを理解し、衣服の材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯と、衣服の状態に応じた適切な補修ができるようにする。 ⑵ **住居の機能と住まい方** ア・自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについて考え、住居のもつ基本的な役割が分かるようにする。・簡単な図などによる住空間の構想を扱う。 イ・住まいの安全性の視点から、家族が安心して住まうための室内環境の整え方を知り、住まいの在り方に関心をもって、快適な住まい方の工夫ができるようにする。 ⑶ **衣生活、住生活などの生活の工夫** ア・身近な衣服の材料である布を用いた簡単な衣服や小物を製作することを通して、衣生活や住生活を豊かにするための工夫ができるようにする。 ・主として補修の技術を生かしてできる製作品を扱う。 イ・課題をもって製作や調査などを行い、衣生活や住生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てるようにする。	**C快適な衣服と住まい** ⑴ 衣服の着用と手入れ ア 衣服の働きと快適な着方の工夫 イ 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯 ⑵ 快適な住まい方 ア 住まい方への関心、整理・整頓及び清掃の仕方と工夫 イ 季節の変化に合わせた生活の大切さ、快適な住まい方の工夫 ⑶ 生活に役立つ物の製作 ア 形などの工夫と製作計画 イ 手縫いやミシン縫いによる製作・活用 ウ 用具の安全な取扱い
	活動例	○各種の制服や流行について話し合う。○具体的な生活場面を想定し、目的に応じた着方や自分を表現する着方を工夫する。○浴衣など和服について調べたり着用したりする。○必要な衣服の種類や数量を把握する。○よく着るものとあまり着ないものについての理由を話し合う。○日常着の衣服を購入する時の視点を調べたり話し合ったりする。○綿と毛、織物と編物を比較し、布の収縮や型くずれに配慮した洗い方や干し方を考える。○汚れの性質、洗剤の働き、洗濯機の水流の強弱、部分洗いの効果を理解する。○まつり縫いによる裾上げ○ミシン縫いによるほころび直し○スナップ付け○鳥瞰図等を活用して住空間を想像する。○室内の写真や住空間の図を用い危険な箇所を点検する。○過去の災害の例を取り上げ必要な備えを検討する。○周囲に発生する音の測定をして快適な生活を送るための工夫や実践をする。○まつり縫いなどの補修の技術や小学校の学習を踏まえ布を用いた物を製作する。○着用されなくなった衣服を他の衣服に作り直したり、再利用したりするなどの計画をして実践する。○事故を防ぐ手立てとなるものを製作したり、防災に必要なものを備えたりする。
D 身近な消費生活と環境	⑴ **家庭生活と消費** ア・中学生にかかわりの深い事例を通して、自分が物資・サービスを購入する主体であり、適切な消費行動をとる必要があることなどに気付くようにするとともに、消費者の基本的な権利と責任について理解し、消費者としての自覚を高めるようにする。 イ・中学生の身近な消費行動を振り返る学習を通して、販売方法の特徴を知り、生活に必要な物資・サービスを適切に選択、購入及び活用ができるようにする。 ⑵ **家庭生活と環境** ア・消費生活と環境とのかかわりについて関心と理解を深め、持続可能な社会の構築のため、これからの生活を展望して、自分や家族の生活を見直し、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践ができるようにする。	**D身近な消費生活と環境** ⑴ 物や金銭の使い方と買物 ア 物や金銭の大切さ、計画的な使い方 イ 身近な物の選び方、買い方 ⑵ 環境に配慮した生活の工夫 ア 身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫
	活動例	○消費者にかかわるトラブルについてロールプレイングをしたり、地域の消費生活センターを見学したりする。○それぞれの販売方法の利点や問題点について話し合い、購入の目的に応じた販売方法を検討する。○物資・サービスの選択場面を想定し、適切な情報を収集、整理する。○使い捨て容器とリサイクル可能な容器、食品の包装などから、価格や利便性などのほか環境とのかかわりの点から比較し検討する。○水、ガス、電気の利用状況やごみの減量化から生活の仕方と環境とのかかわりに気付き、資源を有効に利用するための実践をする。

⑵ 空間軸や時間軸の視点を重視し、小・中・高等学校の体系化を図った指導計画の作成

改善の基本方針にある空間軸の視点「自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視する」については、中学生の生活の自立を目指す学習において、その自立は家族や家庭とともにあること、また、家族や家庭は社会とのつながりの中にあることを意識して指導や題材構成を行う。また、中学校としての時間軸の視点「これからの生活を展望して」については、生徒が生活の自立を目指して学習を行う過程で、将来にわたって自立した生活を営む見通しをもたせるようにする。さらに、「よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する」視点から、小・中・高をつないで体系化を図ることが重要である。

⑶ ストーリー性のある３学年間を見通した指導計画の作成

家庭に関する教育を体系的に行う視点から、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容を設定するとともに、他教科等との関連を明確にし、連携を図る。また、ストーリー性のある３学年間を見通した指導計画を作成し、中学校での学習の見通しを立てさせ、意欲的に学習に取り組ませる。ストーリー性のある指導計画を作成する際には、目標を踏まえて目指す生徒の姿を明確にし、それに近付くための目標や指導の道筋（ストーリー）を示し、題材をつなぎ、積み上げるように配慮する。

3　3学年間を見通した指導計画例

指導計画例１

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	題材	技術って何だろう？【５時間】					身の回りを整理する作品をつくろう！【23時間】																					情報を活用して、生活に生かそう！【７時間】								
		項目	A(1)アイ					A(2)アイウ(3)アイウ																					D(1)アイウ								
		指導内容	○ガイダンス ○生活や産業で利用されている技術 ○技術の進展と環境					○材料の特徴と利用方法 ○材料と加工に関する技術の適切な評価・活用 ○構想と製作図											○工具や機器の安全な使用方法 ○使用目的・条件に即した機能と構造 ○部品加工、組立て及び仕上げ												○身の回りにある情報技術 ○コンピュータの構成と利用 ○情報通信ネットワークの概念と安全利用 ○情報モラルと著作権								
	家庭	題材	自分の食生活を見直し、よりよい食生活を考えよう！【31時間】																																	★【４時間】	
		項目	A(1)ア　B(1)アイ(2)アイウ(3)アイ																																	B(3)ウ	
		指導内容	○ガイダンス ○栄養素の種類と働き ○魚、肉、野菜を使った基礎的な日常食の調理					○中学生の食生活と栄養～私の食生活振り返り大作戦！食卓リポート！～ ○自分の食生活の課題を解決する献立作成 ○地域や季節の食材を生かした献立作成と調理																						○食事が果たす役割 ○食品の選び方								
第2学年	技術	題材	目的をもって生物育成にチャレンジしよう！【11時間】											エネルギーを変換している機器や機構について学ぼう！【６時間】												エネルギー変換を利用したインテリアをつくろう！【18時間】										
		項目	C(1)アイ(2)ア											B(1)ア												B(1)イウ(2)アイ										
		指導内容	○生物の育成に適する条件と育成環境 ○生物育成に関する技術の適切な評価・活用 ○生物育成に関する技術を利用した栽培、作物の管理方法											○生活の中のエネルギー変換 ○電気が家庭に送られるまで ○動力を伝える機構 ○エネルギー変換機器の構成												○製作品の構想 ○保守点検と安全					○製作品の組立て・調整 ○エネルギー変換に関する技術が果たしている役割						
	家庭	題材	幼児の生活や特徴を知り、幼児と触れ合おう！【18時間】																										衣生活の中の消費を考えよう！【17時間】								
		項目	A(1)ア(2)アイ(3)アイウ																										C(1)アイウ(3)ア　D(1)アイ								
		指導内容	○自分の成長と家族 ○幼児の遊び道具の製作 ○幼児とのかかわり方の工夫																○家庭と家族関係 ○遊び道具をもっての幼稚園訪問					○幼児の発達と生活の特徴					○目的に応じた着用、個性を生かす着用～コンピュータを使ったカラーコーディネート～ ○衣服の選択（表示、購入の観点） ○住生活を豊かにする小物の製作～クッション、座布団やコンピュータカバー等～					○洗濯、補修等の日常着の手入れ			
第3学年	技術	題材	計測して制御するためのプログラムをつくろう！【９時間】																							コンピュータを使って、今までの学習成果をまとめよう！【８時間】										
		項目	D(3)アイ																							D(1)エ(2)アイ										
		指導内容	○プログラムの役割と計測、制御 ○簡単なプログラムの作成																							○目的に応じた作品の設計、制作と発信 ○情報に関する技術が果たしている役割 ○情報社会の歩き方										
	家庭	題材	消費や環境も考えた快適な住まい方を工夫しよう！【15時間】																																	★【３時間】	
		項目	C(2)アイ　D(1)アイ(2)ア																																	A(3)エ B(3)ウ C(3)イ	
		指導内容	○住居の機能と住まい方 ○消費者の基本的な権利と責任 ○適切な選択、購入、活用																							○家庭内の事故と防止 ○販売方法の特徴 ○家庭生活と環境～節約生活裏技調べ～										

作成のポイント

技術分野

【A 28H　B 24H　C 11H　D 24H】

◇　内容ごとに題材を設定し、ポイントを絞った学習ができる指導計画例。

◇　第２学年の内容Ｃは年間を通じて、特定の時期に集中、もしくは適切な時期に分散して履修も可能。

家庭分野

【A 19H　B 30H　C 24H　D８H　課７H】

◇　実践的・体験的な学習活動を通して、自分の生活の自立を目指すための指導計画例。

・　内容Ａ～Ｄがそれぞれまとめて学習できるよう題材を配置し、実践的・体験的な学習を多く取り入れる。

指導計画例２

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	題材	オリジナルストラップをつくろう！【８時間】								技で創ろう！オリジナルプランターカバー【15時間】															プランタで元気に育てよう！【12時間】										
		項目	A(1)アイ(2)ア								A(2)アイウ(3)アイウ															C(1)アイ(2)ア										
		指導内容	○ガイダンス ○材料の性質と特徴及び身近な製品での利用								○使用目的や条件に応じた材料の選択と加工方法 ○木材を主とした設計と製作 ○加工技術の進歩による社会の発展と課題																	○生物育成条件と管理技術 ○特性や条件に応じた作物の栽培計画 ○栽培の伝統的な技術と先端技術										
	家庭	題材	安全で快適な住まい方を考えよう！【８時間】								消費者としてよりよい食生活を考えよう！【24時間】																										★【３時間】	
		項目	A(1)ア　C(2)アイ								B(1)アイ(2)アイウ(3)アイ　D(1)アイ(2)ア																										B(3)ウ	
		指導内容	○ガイダンス ○住居の基本的な機能 ○安全で快適な住まい方の工夫								○中学生の食生活と栄養 ○消費を考えた適切な食品の選び方～加工食品表示あてクイズ～ ○魚、肉、野菜を中心とした基礎的な日常食の調理１																	○中学生の栄養を考えた１日の献立作成 ○環境に配慮した調理実習～ゴミを減らす工夫調べ～ ○地域や季節の食材と消費生活との関連										
第2学年	技術	題材	動くおもちゃをつくろう！【22時間】																							作った作品をＰＲしよう！【７時間】								生活をより豊かにする計測・制御って何だろう？【６時間】		
		項目	A(2)イ(3)アイウ　B(1)アイウ(2)アイ																							D(1)アイウエ								D(1)エ(3)アイ		
		指導内容	○エネルギー変換を利用した身近な機器の基本的な仕組み ○モーターを動力源に利用した動くおもちゃの設計と製作 ○環境負荷の軽減を目的とした先端技術とその利用																							○メディアを用いた作品ＰＲ ○ネットワークを利用した発表 ○流通と情報通信ネットワーク								○簡単な制御プログラムの作成 ○製造場面でのコンピュータ制御の利用		
	家庭	題材	地域や季節の食材を使った調理をしよう！【12時間】																							私はデザイナー～簡単な衣服を作ろう～【20時間】										★【３時間】
		項目	B(3)アイ																							C(1)アイウ(3)ア										B(3)ウC(3)イ
		指導内容	○魚、肉、野菜を中心とした基礎的な日常食の調理２ ○地域や季節の食材を使った経済的な調理に挑戦！																							○目的に応じた着方や個性を生かす着用の工夫 ○日常着の手入れ　～洗濯、補修～ ○簡単な衣服の製作　～ハーフパンツ、Ｔシャツ、スカート、ワーキングウエア～					○衣服の計画的な着用や適切な選択						
第3学年	技術	題材	※手づくりのプレゼントを贈ろう！【８時間】																							メッセージビデオを贈ろう！【10時間】										
		項目	A(2)イ(3)アイウ																							D(1)ウ(2)アイ										
		指導内容	○贈る相手のニーズを考えた製作 ○能率的な作業工程の工夫																							○メッセージビデオの制作 ○メディアの活用と情報技術										
	家庭	題材	幼児の生活を知り、自分の成長を振り返ろう！【17時間】																																		
		項目	A(1)ア(2)アイ(3)アイウ																																		
		指導内容	○自分の成長と家族 ○幼児の生活と家族 ○幼児、保護者を招いた触れ合い体験～読み聞かせと簡単絵本づくり～																							○家庭と家族関係										

作成のポイント

技術分野

【A 31H　B 22H　C 12H　D 23H】

◇　学年ごとに題材の関連性を持たせ、学習内容の系統性がある指導計画例。

・　※の題材は履修済み内容の深化を目的とする。生徒の実態等に応じてその他の内容Ｂ～Ｃに置き換えが可能。

◇　導入題材を用いたガイダンスの実施。

家庭分野

【A 18H　B 28H　C 27H　D８H　課６H】

◇　家庭生活と学習をより関連づけ、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と実践的な態度をはぐくむ指導計画例。

・　長期休業中に「生活の課題と実践」に取り組めるよう指導計画に配置し、家庭との連携を図る。

指導計画例３

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第１学年	技術	題材	身の回りから技術を考える【６時間】						情報通信ネットワークの活用とネチケット【10時間】										お箸の製作【４時間】				収納ケースの製作【15時間】														
		項目	A(1)アイ						D(1)アイウエ										A(2)アイ				A(2)アイウ(3)アイウ														
		指導内容	○ガイダンス ○情報通信やコンピュータ制御の発展と生活の変化						○ディジタル情報とその取扱い ○省資源、省エネルギーの視点による情報通信ネットワークの利用										○材料の性質と特徴 ○加工法の検討				○木材を主とした身近なものを収納する箱の設計と製作 ○プラスチックと金属部品の利用 ○再生産可能材料の利用と課題														
	家庭	題材	自分の成長を振り返ろう！【12時間】																食事が果たす役割を考えた食生活をしよう！【20時間】																★【３時間】
		項目	A(1)ア(2)アイ																B(1)アイ(2)アイ(3)ア																A(3)エ B(3)ウ
		指導内容	○ガイダンス ○自分の成長と家族　○家庭や家族の基本的な機能 ○これからの自分の生活～家族新聞づくりを通して～																○中学生の食生活と栄養～朝食調べ、朝食摂取の効果実験～ ○食品の栄養的特質～栄養バランスシートづくり～　○中学生の１日分の献立～朝食、給食から考える献立作成～　○食品の選択　○魚、肉、野菜等を使った日常食の調理															
第２学年	技術	題材	ムーディーＬＥＤライトスタンドの製作【25時間】																									作品を用いたＣＭの制作【10時間】								
		項目	A(2)イ(3)アイウ　B(1)アイウ(2)アイ																									D(1)ウ(2)アイ								
		指導内容	○太陽電池と光センサーを利用したＬＥＤ灯の設計と製作 ○力の伝達の機構及びエネルギー変換の活用、電気の安全な利用と事故防止 ○省資源、省エネルギーと先端技術																									○著作権と発信情報 ○フラッシュアニメーションによるＣＭ制作								
	家庭	題材	自分の衣生活・住生活をみつめよう！【11時間】																日常食や郷土料理を作ろう！【12時間】													幼児とのかかわり方を工夫しよう！【12時間】								
		項目	C(1)アイウ(2)アイ																B(2)ウ(3)アイ													A(3)アイウ								
		指導内容	○衣服の選択と手入れ ～日常着を活用したコーディネート～ ○住居の機能と住まい方～防災対策体験～																○魚、肉、野菜等を使った日常食の調理 ○埼玉や地域の食材、郷土料理調べ ○埼玉や地域の郷土料理の調理													○幼児の発達　○家族の役割 ○幼児の遊びの意義～遊び道具づくり～ ○幼児との触れ合い～保育所訪問～								
第３学年	技術	題材	環境にやさしい生物育成の技術【10時間】																コンピュータ制御を生かした快適な環境づくり【７時間】																		
		項目	C(1)アイ(2)ア																D(3)アイ																		
		指導内容	○生育環境による影響と、育成に適した環境の管理 ○環境負荷の軽減と安全を意識した栽培 ○バイオ燃料等の新資源とその生産による影響																○コンピュータ制御の特性 ○計測・制御システムの利用 ○コンピュータとプログラム																		
	家庭	題材	生活を豊かにする小物作りをしよう！【７時間】																消費生活と環境を考えよう！【８時間】																	★【３時間】
		項目	C(3)ア																D(1)アイ(2)ア																	A(3)エ B(3)ウ C(3)イ
		指導内容	○布を用いた物の製作～基礎縫いを使ったオリジナルソーイング～																○消費者の権利と責任 ○販売方法の特徴～ロールプレイング～ ○環境に配慮した消費生活の工夫																	

作成のポイント		
	技術分野	【A 25H　B 25H　C 10H　D 27H】 ◇　題材ごとに、生活や産業の中で活用されている具体的な技術や、技術の進展と環境について関連性を持たせた指導計画例。 ◇　総合的な学習の時間との連携から内容Ｄから履修し始める計画及び、内容Ｄとかかわらせたガイダンス。
	家庭分野	【A 24H　B 32H　C 18H　D８H　課６H】 ◇　基礎的・基本的な知識及び技術の習得を図るための指導計画例。 ・　内容Ａ～Ｄが繰り返して学習できるよう題材を配置する。

指導計画例４

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第１学年	技術	題材	これから学ぶ技術という教科【４時間】				整理整頓、ＭＹラックの製作【16時間】																学校ガーデンづくり【５時間】					栽培ブログづくり【10時間】								
		項目	A(1)アイ				A(2)イウ(3)アイウ																C(1)アイ(2)ア					D(1)イウエ(2)アイ								
		指導内容	○ガイダンス ○生活や産業で利用されている技術				○側板２枚、底板１枚、背板１枚からなるラックを設計、製作 ○使用目的や条件に即した機能や構造の工夫 ○有効な資源利用に関する技術開発と、再資源化しやすい製品開発の効果と課題																○生物育成に適した条件と環境 ○循環型生物育成技術の利用と課題					○メディアとＷｅｂページ作成 ○情報通信ネットワークによる社会の発展と課題								
	家庭	題材	自分と家族、地域とのかかわり【12時間】																家族や自分にとって快適な着方・住まい方【23時間】																		
		項目	A(1)ア(2)アイ																C(1)アイウ(2)アイ(3)ア																		
		指導内容	○ガイダンス　○自分の成長と家族 ○家庭と家族関係　○地域の活動や行事調べ ○高齢者など地域の様々な人とのかかわり																○衣服の機能　○着方の工夫　○衣服の選択と手入れ～既製服表示調べ～ ○住居の機能と住まい方　○室内環境の整え方　○安全な住まい方～危険箇所の点検～ ○家族のための布を用いた物の製作																		
第２学年	技術	題材	写真立ての製作（家族への手づくりプレゼントⅠ）【10時間】																電子小物の製作（家族への手づくりプレゼントⅡ）【15時間】									電子使用手引書と電子メッセージの制作【６時間】					潤いのある学校づくり①※【４時間】			
		項目	A(2)イウ(3)アイウ																A(2)イ(3)アイウ　B(1)アイウ(2)アイ									D(1)ア(2)アイ					C(1)アイ(2)ア			
		指導内容	○相手のニーズや安全を考えた作品の設計と製作 ○作品の完成までを見通した計画的な作業 ○生産者と消費者の視点による生産技術																○センサーを利用した作品の設計と製作 ○安全に利用するための仕組みと保守点検 ○エネルギー変換技術の進歩と課題									○リンク機能を利用した使用手引書の作成とアニメーションメッセージの制作					○生物育成の技術と環境保全			
	家庭	題材	食生活の自立を目指した日常食の調理【23時間】																				家族のための行事食【９時間】													★【３時間】
		項目	B(1)アイ(2)アイウ(3)ア																				B(3)イ													A(3)エ B(3)ウ C(3)イ
		指導内容	○食事の果たす役割　○中学生の食生活と栄養～五大栄養素検出実験～ ○日常食の１日分の献立作成　○食品の選び方生鮮食品、加工食品～添加物の検出実験～ ○肉、魚、野菜等を使った基礎的な日常食の調理																				○地域の伝統的な行事食調べ ○家族のための行事食の調理実習												
第３学年	技術	題材	潤いのある学校づくり②※【４時間】				コンピュータを使ったロボットのコントロール【14時間】																															
		項目	C(1)アイ(2)ア				B(1)ア　D(1)エ(3)アイ																															
		指導内容	○生物育成の技術と消費・生産				○力の伝達機構とロボットの動く仕組み ○コンピュータを用いたロボットの制御システム ○安全性、経済性の視点からのコンピュータ制御																																	
	家庭	題材	安全な幼児の遊び・環境【17時間】																																		
		項目	A(3)アイウ　D(1)アイ(2)ア																																		
		指導内容	○幼児の発達　○消費や環境を考えた遊び道具の製作 ○消費者の権利と責任　○商品やサービスの選択、購入、活用 ○販売方法の特徴～ロールプレイング～																																		

作成のポイント		
	技術分野	【A 30H　B 20H　C 13H　D 25H】 ◇　内容Ｃを３学年間を通して履修する指導計画。 ・　※では植林や動物の飼育も可能。 ◇　ガイダンス以外は、学年内での特定の時期に集中、もしくは適切な時期に分散した履修が可能。
	家庭分野	【A 22H　B 32H　C 23H　D７H　課３H】 ◇　家庭や家族の機能を理解し、家族とのかかわりの中で生活を主体的にとらえる力をはぐくむための指導計画例。 ・　自分と家族・家庭に視点を置いた題材を設定し、内容Ａ～Ｄの学習を進める。

4　技術分野の指導計画例

(1)　指導内容の取扱い

指導事項	指導内容　【配当時間】	指導上の留意点
	題材１　**技術ってなんだろう？【５時間】**	
技術が生活に果たしている役割 A(1)ア	○ガイダンス ・中学校の３学年間の学習について ○生活や産業で利用されている技術 ・技術が果たしてきた役割 ・ものづくりの文化と伝統	・技術分野で学習する基礎的・基本的な知識及び技能を習得することの大切さを理解させ、学習の見通しを立たせる。 ・技術の発達が、人間が行う作業の軽減、能率や生産性の向上に果たしている役割について関心をもたせる。
技術の進展と環境との関係 A(1)イ	○技術の進展と環境 ・環境問題から考える省エネルギー ・エネルギー資源の有効な利用方法	・エネルギー資源の現状や環境問題から技術の開発など、新しい技術とその有効な活用方法について関心をもたせる。
	題材２　**身の回りを整理する作品をつくろう！【23時間】**	
材料の特徴と利用方法 A(2)ア	○材料の特徴と利用方法 ・生活で利用されている様々な材料 ・使用目的に応じた材料の利用	・簡単な実験や観察から、材料の特徴及び利用方法を知らせ、製作品に適した材料が選択できるようにさせる。
材料の加工法と工具や機器の安全使用 A(2)イ	○工具や機器の安全な使用方法 ・材料の加工方法 ・工具や機器の正しい使用方法	・材料の特徴から可能な加工方法を検討させ、工具や機器の構造や加工の仕組みを理解した上で安全かつ適切に使用できるようにさせる。
技術の適切な評価・活用 A(2)ウ	○材料と加工に関する技術の適切な評価・活用 ・技術が果たす役割 ・技術を適切に生かす方法	・木材や金属などの資源を有効利用する取組などについて検討することで、社会や生活の中で材料や加工に関する技術を適切に評価させる。
機能と構造 A(3)ア	○使用目的・条件に即した機能と構造 ・製作品に適した材料の選択 ・材料の接合方法と構造	・使用目的や使用条件に応じた材料を選択し、製作品の構造を強くするための方法や形状、接合方法などを考えさせる。
構想と製作図 A(3)イ	○構想と製作図 ・製作図の役割について ・正しい製作図の表示・表現方法	・製作図には、構想の問題点や修正、製作品の部品の形状・寸法を示す役割があることを理解させ、場面に応じた製作図をかかせる。
部品加工、組立て及び仕上げ A(3)ウ	○部品加工、組立て及び仕上げ ・能率的な作業工程 ・安全な作業と機器や道具の保守点検	・材料の種類や個数、工具や機器及び製作順序などを整理させ、作業計画に基づいて安全で能率的な作業ができるようさせる。
	題材３　**情報を活用して、生活に生かそう！【７時間】**	
コンピュータと情報処理の仕組み D(1)ア	○身の回りにある情報技術 ・情報の概念 ・生活の中の情報技術 ○コンピュータの構成と利用 ・コンピュータを構成する主要な装置 ・基本的な情報処理の仕組み ・ディジタル化の目的と方法	・普段見過ごしてしまいがちなものに目を向けさせ、情報技術に関心をもたせる。 ・機器の特徴や仕組みに触れ、科学的な根拠に基づいた指導となるよう留意する。 ・ファイル・サイズを比較するなどして、ディジタル化の方法と情報の量との関係について知ることができるようにする。
情報通信ネットワークと情報利用の仕組み D(1)イ	○情報通信ネットワークの概念 ・情報通信ネットワークの構成とインターネット ○情報通信ネットワークの安全利用 ・安全に情報を利用するための基本的な仕組み ・情報セキュリティ確保のための対策と対応	・bps など情報通信ネットワークに関する主な単位については、必要に応じて取り上げる。 ・情報セキュリティの確保のために対策・対応がとれるよう、情報モラルの内容と関連させて指導する。 ・情報のディジタル化や、情報通信ネットワークの学習と関連させて指導する。
情報モラルと著作権 D(1)ウ	○情報モラルと著作権 ・情報発信で発生する可能性のある問題点 ・発信者としての責任 ・ディジタル化された情報と著作権 ・危険の回避や人権侵害の防止 ・知的財産を保護する必要性	・映画や楽曲等の違法な複製は、制作者に経済的な損害とともに制作意欲の減退などの悪影響を及ぼすことを知ることができるようにする。
	題材４　**目的をもって生物育成にチャレンジしよう！【11時間】**	
生物の育成と生育環境 C(1)ア	○生物育成に適する条件と育成環境 ・食料や燃料の生産、生活環境の整備	・生物育成の目的や環境条件に適した作物を選択させる。 ・栽培に関する種まき、定植や収穫などの作物の管理技術、整地、除草、施肥やかん水などの育成環境の管理技術を理解させる。
生物育成の技術の評価・活用 C(1)イ	○生物育成に関する技術の適切な評価・活用 ・自然の生態系の維持と生物育成に関する技術の評価と活用	・生物育成には、改良・工夫された伝統的な技術と、バイオテクノロジーなどの先端技術があることを踏まえ、生物育成に関する技術を適切に評価させる。

指導事項	指導内容 【配当時間】	指導上の留意点
生物育成に関する技術を利用した栽培 C(2)ア	○生物育成に関する技術を利用した栽培 ・様々な育成条件を踏まえた栽培計画 ○作物の管理方法 ・安全な作物の栽培	・栽培計画を立て、合理的に栽培ができるようにするとともに、成長段階に応じて適切な管理作業ができるようにさせる。 ・生産物の品質や収穫量の向上等を目的とした栽培計画を立てさせるなど、生物育成に関する技術を意識した栽培とする。
	題材５ **エネルギーを変換している機器や機構について学ぼう！【６時間】**	
エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み B(1)ア	○生活の中のエネルギー変換 ・生活の中の様々な機器 ・身近な機器の仕組みと特徴 ○電気が家庭に送られるまでの仕組み ・様々な発電方法と送電方法及び環境 ・屋内配線の仕組みと各機器の働き ○動力を伝える機構 ・摩擦、かみ合いを利用した動力伝達 ○エネルギー変換機器の構成 ・種類や用途、共通規格 ・動力伝達の損失を少なくする仕組み	・身近な電気機器や機械では、生み出されたエネルギーが、光、熱、動力などに変換され利用されていることに気付くようにする。 ・エネルギー変換はどのような仕組みで生み出され利用されているかを考えさせるようにする。 ・動力を伝える機構に関する基本的事項を理解できるようにする。 ・１つの機器を取り上げて指導した場合、他の機器にも応用できるようにする。 ・エネルギー変換機器に共通に利用されている部品や仕組みについて理解できるようにする。
	題材６ **エネルギー変換を利用したインテリアをつくろう！**【18時間】	
目的や条件に応じた製作品の機能と構造の選択と設計 B(2)ア	○製作品の設計 ・電気を光、熱、動力に換える仕組み ・事故防止と防止装置 ・構想の表し方とまとめ方（構想図や回路図）	・自分の考えを整理し、よりよい構想を生み出しやすいように、図や表などを適切に用いて指導する。
製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検 B(2)イ	○製作品の組立て・調整 ・工程表の作成 ・製作品の組立て ・部品の点検と異常原因の追及	・火傷や感電事故、火災などの防止に十分注意させる。
機器の基本的な仕組みと保守点検 B(1)イ	○保守点検と安全 ・電気製品による事故の事例 ・機器の保守点検と事故防止 ・回路計の使い方	・製品の保守点検に当たっては、取扱説明書に記載され、製造者が認めている範囲において行わせる。 ・安全な使い方を知ることや、保守点検が必要であることに気付かせる。
エネルギー変換に関する技術とこれからの社会 B(1)ウ	○エネルギー変換に関する技術が果たしている役割 ・環境負荷軽減のための先端技術 ・環境に配慮した生活	・技術が自然環境の保全に貢献していることに気付かせたり、環境への負荷を評価したり、環境に配慮した生活について考えさせたりする。
	題材７ **計測して制御するためのプログラムをつくろう！【９時間】**	
プログラムによる計測・制御 D(3)アイ	○プログラムの役割と計測・制御 ・身の回りの計測・制御システム ・プログラムの役割と電気信号の変換 ○簡単なプログラムの作成 ・プログラムの作成と評価・活用	・プログラムの命令語の意味を覚えさせるよりも、課題の解決のために処理の手順を考えさせる。 ・フローチャートや命令語などを適切に用いることができるよう指導する。
	題材８ **コンピュータを使って、今までの学習成果をまとめよう！【８時間】**	
ディジタル作品の設計と制作 D(2)アイ	○目的に応じた作品の設計 ・メディアの素材の特徴と利用方法 ・メディアとソフトウェアの選択 ・作品の設計と構成画面の図式化 ○目的に応じた作品の制作と発信 ・制作工程表の作成 ・素材の準備、統合、発信	・著作権や個人情報の取扱いについては、具体的な事例をもとに指導する。 ・望ましい作業姿勢、機器の配置、長時間作業は避けるなど、健康面や作業効率についても配慮する。 ・使用するメディアの準備とディジタル化など、制作順序をあらかじめ整理し、能率的な作業ができるようにさせる。
情報技術と未来の生活 D(1)エ	○情報に関する技術が果たしている役割 ・情報技術と環境及び社会生活 ・予想される未来の情報技術 ○情報社会の歩き方 ・情報技術が社会に与える影響	・情報に関する技術にかかわる倫理観や知的財産を創造・活用しようとする態度が育成されるように留意する。 ・情報に関する技術を適切に評価し、関連した職業についての理解を深めることにも配慮する。

5　家庭分野の指導計画例

◇発達の段階に応じて体系的に自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、自立した生活を目指し、実践的な態度を育成するための指導計画

・第１学年では自分、第２学年では家庭・地域、第３学年では地域へと空間軸を広げた題材を配置し、自己の生活の自立を図るとともに、家族や地域社会と共に家庭生活を工夫できるようにする。

指導事項	指導内容　【配当時間】	指導上の留意点
	題材１　　**深めよう技術・家庭科**【１時間】	
自分の成長と家族 A⑴ア	○ガイダンス（３学年間の学習の見通し） ・家庭生活や小学校家庭科の振り返り ・家庭分野の学習のねらいと概要 ・これからの学習を通して、自分ができるようになりたいことや３年後の自分をイメージ ・自分の目標や課題の明確化	・これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習を振り返ったり、家庭分野の学習のねらいや概要に触れたりして、見通しをもたせるなどの活動を通して、意欲を高めるようにする。また、学習への期待と意欲をもつことができるようにする。
	題材２　　**１日の献立を考えた日常食の調理をしよう！**【24時間】	
食事が果たす役割 健康によい食習慣 B⑴ア 栄養素の種類と働き 中学生の栄養の特徴 B⑴イ	○中学生の食生活と栄養 ・生命の維持や健康の保持増進、成長、人間関係を深めたり文化を伝えたりするなどの食事の役割 ・栄養バランスがよい食事、規則正しい食事の重要性、自分の食習慣の見直し（食事調べ） ・五大栄養素の種類と働き、食物繊維と水の働き ・食事摂取基準	・食生活調べや話合いなどの活動を通して、生徒が自分の食生活について主体的に考えられるようにする。 ・家庭での食事を取り上げる場合には、生徒のプライバシーに十分配慮する。 ・調査や話合いなどをしたり、視聴覚教材を活用したりするなどの活動を取り入れ、栄養素に関心をもたせるよう配慮する。
食品の栄養的特質 B⑵ア 中学生の１日に必要な食品の種類と概量、１日分の献立 B⑵ア、イ	○食品の栄養的特質と日常食の献立 ・日本食品標準成分表、食品群別摂取量の目安 ・中学生の１日に必要な食品の概量 ・実際の食品を食品群に分類、計量 ・主に栄養を考えた食品の組合せを中心とした献立（主食、主菜、副菜、汁物等の料理の組合せ） ・１日分の献立の立案	・食品群については、小学校で学習した栄養素の体内での主な３つの働きとの系統性を考慮して扱うようにする。 ・１日に必要な食品の概量を実感させるようにする。 ・細かな数値にとらわれるのではなく、食事を食品の概量でとらえられるようにする。
消費者の基本的な権利と責任 D⑴ア 食品の選択 B⑵ウ 販売方法の特徴 D⑴イ 物資・サービスの選択、購入及び活用 D⑴イ	○食品の選択　　○家庭生活と消費 ・自覚ある消費行動、計画的な支出 ・消費者基本法の趣旨やクーリング・オフ制度 ・消費者にかかわるトラブルについてのロールプレイング ・物資・サービスの適切な選択（選択の視点、品質表示やマーク等の表示の意味） ・生鮮食品と加工食品、食品の保存方法と保存期間 ・調理実習で使用する生鮮・加工食品表示調べ ・消費生活と環境への影響を考えた食品の選択 ・適切な購入方法 ・店舗販売と無店舗販売の特徴、比較 ・購入時の支払い、二者間契約	・中学生にかかわりの深い事例を取り上げて、消費生活に関心をもたせるとともに、生徒が主体的に学習できるよう配慮する。 ・中学生の身近な事例を取り上げ、主体的な消費行動につながるよう配慮する。 ・食品の選択、購入などの具体的な場面を取り上げるなど、実践的な学習となるよう配慮する。 ・調理実習で使用する食品の選択や取扱いについて調査するなどの活動を取り入れるなど、生徒が主体的に考えることができるよう配慮する。
基礎的な日常食の調理 B⑶ア 食品や調理用具等の適切な管理 B⑶ア	○日常食の調理 ・魚（蒲焼き、つみれ汁、あんかけ等）、肉（ハンバーグ、しょうが焼き、トマト煮等）、野菜（肉や魚と組み合わせて）を中心とした日常よく用いられる食品の基礎的な日常食の調理 ・調理操作（洗い方、切り方）、加熱調理（煮る、焼く、炒める）、調味、盛り付け、配膳 ・安全と衛生に留意した食品の取扱いと調理用具等の適切な取扱い及び管理	・小学校での学習を踏まえ、１食分の献立を手順を考えながら調理することができるよう配慮する。 ・調理することの喜びを味わい、自ら調理することによって食生活に対する関心を高め、実践へとつなげることができるようにする。
	題材３　　**自分らしい着方・選び方をしよう！**【10時間】	
衣服と社会生活とのかかわり C⑴ア 目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 C⑴ア 衣服の計画的な活用や選択 C⑴イ 日常着の手入れ C⑴ウ	○衣服の選択と手入れ ・社会生活をしていく上での衣服の機能 ・目的や場に応じたふさわしい着方と工夫 ・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方と工夫（自分の手持ちの衣服の着方と工夫） ・計画的な活用の必要性と衣服の入手 ・組成表示、取扱い絵表示、サイズ表示 ・綿、毛、ポリエステルなどの手入れにかかわる基本的な性質と手入れの仕方 ・洗剤の働きと種類、電気洗濯機を用いた洗濯 ・目的と布地に適した補修と実践（まつり縫い、スナップ付等による CD ケースカバー、箸入れ等の製作）	・話合いや調査などの活動を通して、生徒が自分の衣服の着方について主体的に考え、生活における実践につなげることができるよう配慮する。 ・実験や調査を取り入れたり、視聴覚教材を活用したりするなどして、衣服の手入れについての関心を高め、生活における実践につなげることができるよう配慮する。 ・補修の方法を取り入れるとともに、製作後、活用できる製作品とする。
	題材４　　**住まいの安全を考え、防災グッズをつくろう！**【14時間】	
住居の基本的な機能 C⑵ア	○住居の機能と住まい方 ・住居の基本的な機能、生活と住まい方	・住空間を想像できるように簡単な図を用いるなどして、具体的に考えられるようにする。

指導事項	指導内容【配当時間】	指導上の留意点
安全な室内環境の整え方、快適な住まい方の工夫 C(2)イ 布を用いた物の製作 C(3)ア 生活を豊かにするための工夫 C(3)ア	・家族が快適に住まうための室内環境の整え方と具体的な工夫 ・家庭内の事故と防ぎ方、自然災害への備え ・室内の空気調節、音と生活のかかわり ○生活に役立つ物の製作 ・手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な知識と技術の活用 ・ミシンの正しい扱い方と操作 ・アイロンの適切な取扱い ・生活を豊かにする具体的な物（生活に役立つ防災グッズ：救急用具入れ、防災リュック、非常食入れ、防災ずきんなど）の計画と製作	・幼児や高齢者など家族が安全で快適な生活を送れるようにすることの重要性に気付かせるよう配慮する。 ・家族の安全を考えた室内環境の整え方の学習を生かし、製作の目的を明確にもつことができるよう配慮する。 ・製作することが物を大切にする心や成就感などをはぐくむこと、製作品を活用することが製作や活用の喜びになることにも配慮する。
これからの生活を展望した生活の課題と実践 B(3)ウ又はC(3)イ	題材５　**生活の課題と実践Ⅰ**【３時間】 ○「Ｂ食生活と自立」「Ｃ衣生活・住生活と自立」に関する課題と製作や調査	・問題解決的な学習を進めるようにする。 ・計画をグループで話し合ったり、実践発表会を設けたりするなどの活動を工夫して、効果的に実践できるようにする。
地域の食材を生かした調理、地域の食文化 B(3)イ 環境に配慮した消費生活の工夫と実践 D(2)ア	題材６　**地域や環境から食文化を考えよう！**【13時間】 ○地域の食文化　　○家庭生活と環境 ・環境に配慮した食生活での工夫と実践 ・環境に配慮した消費生活と循環型社会（価格や利便性と環境とのかかわりの比較、地域の食材を用いることの意義とよさ） ・埼玉県○○地区の特産品、収穫の多い農作物 ・地域の食材を用いた伝統的な郷土料理調べ、調理計画、調理実習 ・循環型社会を目指した生活の工夫・実践（例：ごみの減量化）	・地域との連携を図り、調理実習を中心として行うよう配慮する。 ・環境に影響を与えている消費生活について具体的にとらえさせ、自分の生活に結び付けた課題の解決に向けて、継続して実践することができるよう配慮する。 ・食品の選択や調理などの具体的な場面を取り上げるなど、実践的な学習となるよう配慮する。
自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり A(1)ア 家庭や家族の基本的な機能 A(2)ア 家庭生活と地域とのかかわり A(2)ア これからの自分とよりよい家族関係 A(2)イ	題材７　**自分の成長と家族について考えよう！**【５時間】 ○自分の成長と家族 ・自分の成長とかかわってきた人々を図に表した成長過程の振り返り ・家族やそれにかかわる人々に支えられた自分の成長や生活 ○家庭と家族関係 ・家庭や家族の基本的な機能 ・家庭や家族の重要性 ・調査や話し合い活動による家庭生活と高齢者など地域の様々な人々とのかかわり ・家族の互いの立場や役割（ＶＴＲの利用） ・これからの自分の生活と将来の家庭生活や家族 ・家族関係をよりよくするための方法についてのロールプレイングと話し合い	・成長過程を振り返るなどの活動の際には、生徒のプライバシーに十分配慮する。 ・生徒の生活にかかわりの深い事例を取り上げ、具体的に考えられるようにする。 ・生徒のプライバシーには十分配慮する。
幼児の発達と生活の特徴 A(3)ア 家族の役割 A(3)ア 幼児の観察 A(3)イ 幼児の遊びの意義と遊び道具の製作 A(3)イ 幼児との触れ合い A(3)ウ 幼児とのかかわり方の工夫 A(3)ウ	題材８　**製作した遊び道具を使って、幼児と触れ合おう！**【14時間】 ○幼児の生活と家族 ・幼児の心身の発達と生活の特徴（身体の発育や運動の機能、言語、情緒、社会性） ・基本的な生活習慣（食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔） ・幼児にふさわしい生活を整える家族の役割 ・幼児の遊びの意義（身体の発育や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達）と種類 ・幼児の遊び道具の意義と種類（例：市販の玩具・遊具、絵本、自然の素材、言葉や身体を用いた遊び、伝承遊びなど） ・安全な遊び道具と遊び環境、幼児の心身の発達を踏まえ、安全に配慮した遊び道具の製作 ・子育て支援センターや育児サークルの親子などを教室に招いての触れ合い、幼児に対する接し方、遊び等の工夫 ・製作した遊び道具を使っての幼児との触れ合い ・体験したことや幼児との触れ合いについての振り返りと話合い	・身近な幼児と周囲の人々の観察や視聴覚教材の活用、ロールプレイングなどの学習活動を通して具体的に扱うよう配慮する。 ・具体的な活動を通して幼児の遊びについて考えることができるよう配慮する。 ・安全への配慮について十分考え、計画を立てることができるようにする。 ・幼児との触れ合いが効果的に実施できるように工夫するとともに、事前の打ち合わせを十分行い、幼児及び生徒の安全に配慮する。 ・体験したことを振り返ったり、話し合ったりするなどの活動を工夫し、幼児への理解が深まるよう配慮する。
これからの生活を展望した生活の課題と実践 A(3)エ又はB(3)ウ 又はC(3)イ	題材９　**生活の課題と実践Ⅱ**【３時間】 ○「Ａ家族・家庭と子どもの成長」「Ｂ食生活と自立」「Ｃ衣生活・住生活と自立」に関する課題と製作や調査	・３学年間の学習のまとめとしても位置付け、問題解決的な学習を進めるとともに、実践発表会を設け、評価、改善についてグループで検討するなど効果的に実践できるようにする。

6　題材の指導項目・指導事項チェック表

				題材	第1学年 技術 題材技1 技術って何だろう？ 5H	第1学年 技術 題材技2 身の回りを整理する作品をつくろう！ 23H	第1学年 技術 題材技3 情報を活用して、生活に生かそう！ 7H	第1学年 家庭 題材家1 自分の食生活を見直し、よりよい食生活を考えよう！ 31H	第1学年 家庭 題材家2 生活の課題と実践 4H	第2学年 技術 題材技4 目的をもって生物育成にチャレンジしよう！ 11H	第2学年 技術 題材技5 エネルギーを変換している機器や機構について学ぼう！ 6H	第2学年 技術 題材技6 エネルギー変換を利用したインテリアをつくろう！ 18H	第2学年 家庭 題材家3 幼児の生活や特徴を知り、幼児と触れ合おう！ 18H	第2学年 家庭 題材家4 衣生活の中の消費を考えよう！ 17H	第3学年 技術 題材技7 計測して制御するためのプログラムをつくろう！ 9H	第3学年 技術 題材技8 今までの学習成果をまとめよう！ 8H	第3学年 家庭 題材家5 消費や環境も考えた快適な住まい方を工夫しよう！ 15H	第3学年 家庭 題材家6 生活の課題と実践 3H	合計 105H
技術分野	A材料と加工に関する技術	(1)	ア	技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割	○														
			イ	技術の進展と環境との関係	○														
		(2)	ア	材料の特徴と利用方法		○													
			イ	材料に適した加工法と、工具や機器の安全な使用		○													28H
			ウ	材料と加工に関する技術の適切な評価・活用		○													
		(3)	ア	使用目的や使用条件に即した機能と構造		○													
			イ	構想の表示方法と、製作図		○													
			ウ	部品加工、組立て及び仕上げ		○													
	B エネルギー変換に関する技術	(1)	ア	エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み							○								
			イ	機器の基本的な仕組み、保守点検と事故防止								○							24H
			ウ	エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用								○							
		(2)	ア	製作品に必要な機能と構造の選択と、設計								○							
			イ	製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検								○							
	C 生物育成に関する技術	(1)	ア	生物の育成に適する条件と、育成環境を管理する方法						○									
			イ	生物育成に関する技術の適切な評価・活用						○									11H
		(2)	ア	目的とする生物の育成計画と、生物の栽培又は飼育						○									
	D 情報に関する技術	(1)	ア	コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組み			○												
			イ	情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組み			○												
			ウ	著作権や発信した情報に対する責任と、情報モラル			○												
			エ	情報に関する技術の適切な評価・活用												○			24H
		(2)	ア	メディアの特徴と利用方法、制作品の設計												○			
			イ	多様なメディアの複合による表現や発信												○			
		(3)	ア	コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組み											○				
			イ	情報処理の手順と、簡単なプログラムの作成											○				
家庭分野	A 家族・家庭と子どもの成長	(1)	ア	自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり				○					○						
		(2)	ア	家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわり									○						
			イ	これからの自分と家族、家族関係をよりよくする方法									○						19H
		(3)	ア	幼児の発達と生活の特徴、家族の役割									○						
			イ	幼児の観察や遊び道具の製作、幼児の遊びの意義									○						
			ウ	幼児との触れ合い、かかわり方の工夫									○						
			エ	家族又は幼児の生活についての課題と実践（※1）														○	
	B 食生活と自立	(1)	ア	食事が果たす役割、健康によい食習慣				○											
			イ	栄養素の種類と働き、中学生に必要な栄養の特徴				○											
		(2)	ア	食品の栄養的特質、中学生の1日に必要な食品の種類と概量				○											
			イ	中学生の1日分の献立				○											30H
			ウ	食品の選択				○											
		(3)	ア	基礎的な日常食の調理、食品や調理用具等の適切な管理				○											
			イ	地域の食材を生かした調理、地域の食文化				○											
			ウ	食生活についての課題と実践（※2）					○									○	
	C 衣生活・住生活と自立	(1)	ア	衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫										○					
			イ	衣服の計画的な活用や選択										○					
			ウ	衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ										○					
		(2)	ア	住居の基本的な機能													○		24H
			イ	安全な室内環境の整え方、快適な住まい方の工夫													○		
		(3)	ア	布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫										○					
			イ	衣生活又は住生活についての課題と実践（※3）														○	
	D 身近な消費生活と環境	(1)	ア	消費者の基本的な権利と責任										○			○		
			イ	販売方法の特徴、物資・サービスの選択、購入及び活用										○			○		8H
		(2)	ア	環境に配慮した消費生活の工夫と実践													○		

※1、※2、※3の3事項のうち3学年間で、1又は2事項を選択して履修させる。